

波佐見のツーリズムは人間性回復の運動です！

波佐見町の陶磁器産業が崩壊し始めて10年の歳月が流れました。私は、これまで波佐見焼の再生こそ波佐見町の住民が、生き活きと生きられる事と思っていました。しかし、陶磁器産業の再生は、世界標準化された価格の中でその生き残りは至難の技と言わざるを得ません。

そこで私は、平成13年頃より地方での産業創出を如何にすればよいかと暗中模索する中で、「ツーリズム」という言葉に出会いました。

それからは、ツーリズムの先進地域や研修会に積極的に参加し、その活動を波佐見町に早急に取り入れるべく試みを始めました。リクルートの井手さんたち外部の方の協力を得て、ツーリズムのモニターツアーやシンポジウム、ワークショップ等、国のモデル事業などを有効に使って波佐見町民の意識を変える所まで参りました。そして、平成16年1月NPO法人波佐見町グリーンクラフトツーリズム研究会を設立し、メンバーの活動とそれを支援して下さる人々の支援金で、活動の拠点「文化の陶 四季舎」をその春に完成させ、約1年6ヶ月の活動を続けています。この拠点は、飲食、サロン、陶磁器の物販、作陶体験場、ピザ焼体験場、そして住民の溜まり場として現在大活躍してい

ます。そこは、多くのボランティア的スタッフと館長の畑中夫妻が自発的に活躍して下さるから維持できています。

私は、ツーリズムを継続して行くにあたり、「理念や概念」を基本として持つ事がとても重要と考えていました。ツーリズム活動は、何の運動体であるか探し出すのに相当の時間を要しました。そして、「ツーリズムの活動は、波佐見町の住民が元気に生き活きと生きる為の手段や方法である」と理解できたのです。陶磁器の産業再生をしようとすれば非常に苦しくなりますが、人間が元気に生きる事を発見し、その手段として陶磁器やツーリズム活動があると捉え直すと低収入でも生きる智慧が湧いてきます。ともすれば私共は、情報の氾濫で高収入が人間の生きる方法と思いがちですが、低収入でもよりよく生きる為の哲学を持てば良いと思えました。

よって、ツーリズム活動は、人間性回復の運動体であると、理解することが出来ます。波佐見町の地域再生は、まさに人間性回復の運動であるのです。

NPO法人波佐見町
グリーンクラフトツーリズム研究会

会長 深沢 清